

松本北海道スキー連盟教育本部長からの挨拶

去る11月30日～12月2日、札幌国際スキー場で開催された「技術員冬季研修会」での松本徹教育本部長の開会式での挨拶を掲載しました。

<開会式挨拶（抜粋）>

北海道スキー連盟教育本部冬季研修会・教育本部会議の責任者としてひと言ご挨拶申し上げます。

ここ数年「学ぶ者のみ教える権利あり」と指導者が研修することの重要性を訴えて参りました。そして、学ぶためのよりどころにして頂こうと、これまでの技術を振り返りながら現状を見つめ直す機会として「北海道スキー指導教本」を発刊しました。



既に、皆様方の手元に届いていることと思いますが、しっかりと読んで頂けたでしょうか。今回の研修テーマの柱の一つになっておりますので、良く予習して明日からの研修に参加して頂きたいと思います。

私は学校教育に長く携わっておりますが、今、学校教育が目指すものは「生きる力」の育成といって、自らが課題を見つけ、自ら考え、課題解決の方法を見だし、課題の解決ができる人材を育てること、とされています。

このことを、スキーを指導する私たちの活動に照らし合わせてみて、自ら課題を見つけようとしているでしょうか。課題意識を持ち合わせていないとすれば、解決しようとするかもしれませんし何もしないと言うことです。

ここに集まっている技術員の皆さんは、多くのスキー指導者の代表ですから、このようなことは当てはまらないかも知れませんが、さらに、技術力や指導力をアップするために、今何が必要なのか、課題の発見に今一度取り組んで頂きたいと思います。

そしてこの研修会では、講師のデモや専門委員、イグザミネーから指摘されることや、指導の中でこれからの課題を一つ二つ発見して、今シーズンの研修テーマにして、日々の研鑽に励んで頂ければと思います。

あすから行われる実技研修では、夏季研修会でもお話ししましたが、講師にあたられる皆さんは、遠慮など必要ありませんので、技術的に不十分であるところ、表現力の弱いところをしっかりと指摘し、伝えて、確かな技術の習得につながる指導をして頂きたいと思います。また、受講生の皆さんは、講師の技術ばかりではなく、説明の仕方やスキーに対する情熱も含め、見習うべきところは多々あるかと思いますが、しっかりと学んで地元一般指導者へ研修テーマや課題を伝達して頂くようお願いします。

指導者規程第1条に、「指導員はスキー界の先達として自覚と誇りを持ってその普及発展に努めなければならない」と書かれています。皆さん方は、その指導員を指導する立場にあることは自覚されていることと思いますが、自分の後ろには25名、50名の指導者がいるという自覚を新たにして、今シーズンもガンバっていただきたいと思います。

本日からの研修会が実り多いものになることを期待して挨拶とします。